

【18-A】新郷連区 社会条件

【連区の概要】

新郷連区は瀬戸市の中心部の南西側に位置する。連区内はほぼ住宅地である。主要道路としては県道 57 号が連区の北東から南西にかけて通過している。鉄道は連区の南西端を愛知環状鉄道が通過しており、瀬戸口駅が存在する。



新郷連区

【人口および世帯数】

平成 12 年から平成 22 年までの 10 年間で、新郷連区全体の人口は 6,883 人から 6,496 人と 5.6%減少し、ほぼ連区全域において減少傾向である。一方、世帯数は 2,369 世帯から 2,398 世帯と 1.2%増加している。

新郷連区全体の 65 歳以上人口比率が 20.6%と、瀬戸市全体の 23.3%と比べて 2.7%低く、緑町 2 丁目を除く地域では 65 歳以上人口比率が比較的低い。

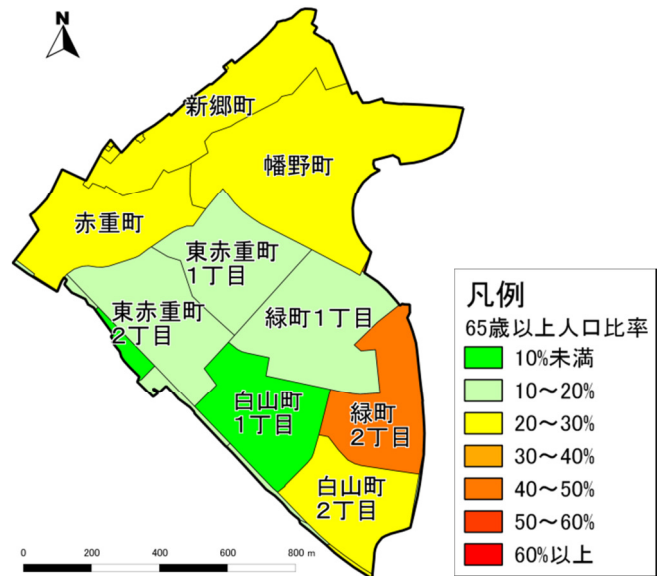
階層別人口構成

年代	人口	構成比
0～14歳	791人	12.2%
15～64歳	4,338人	67.1%
65歳以上	1,332人	20.6%
区分不明	35人	-
連区内人口	6,496人	

※平成22年国勢調査結果より



人口増減率図



65歳以上人口比率図

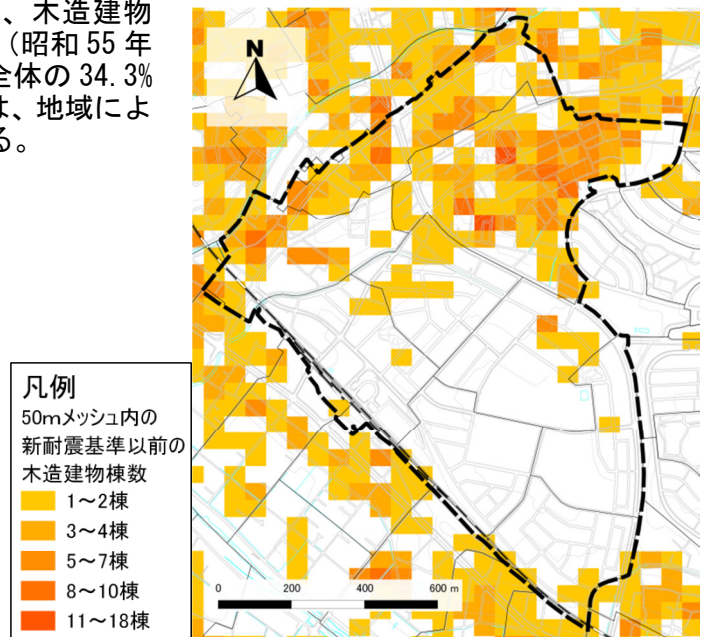
【建物】

新郷連区の木造建物および非木造建物の割合は、木造建物 64.9%、非木造建物 35.1%である。新耐震基準以前（昭和 55 年以前）の木造建物は全建物の 24.8%であり、瀬戸市全体の 34.3%に比べて低い。新耐震基準以前の木造建物の分布は、地域によって偏りがみられ、新郷町、幡野町に集中している。

木造・非木造構成

	建築年	棟数	構成比
木造	S35年以前	131棟	6.5%
	S36～55年	367棟	18.3%
	S56年以降	802棟	40.0%
	計	1,300棟	64.9%
非木造	S45年以前	104棟	5.2%
	S46～55年	120棟	6.0%
	S56年以降	480棟	24.0%
	計	704棟	35.1%
連区内棟数		2,004棟	100.0%

※平成23年度都市計画基礎調査
建物利用現況図をもとに集計



新耐震基準以前の木造建物分布図

【18-B】新郷連区 水害および土砂災害

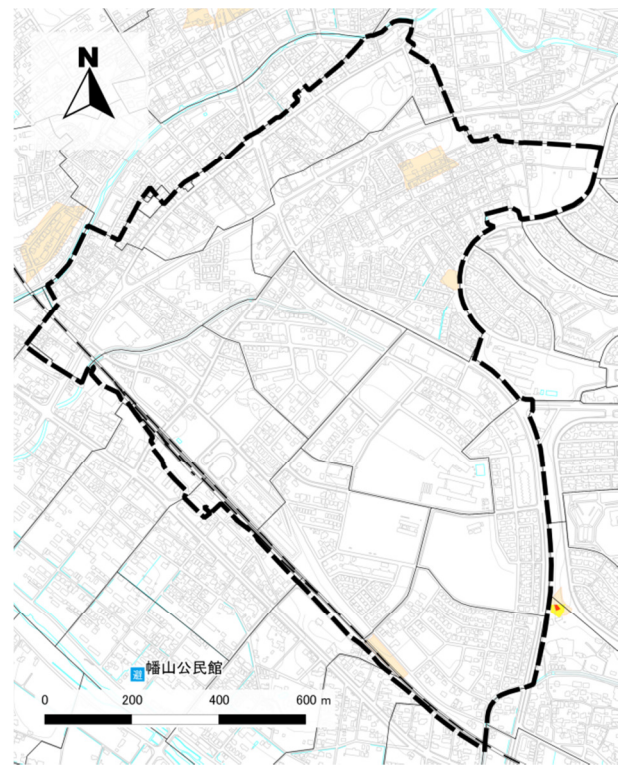
- 浸水想定区域および土砂災害警戒区域は設定されていない。
- 連区内に風水害時の避難所がない。連区北部が風水害時の避難所まで離れている。

【水害および土砂災害箇所】

新郷連区では、浸水想定区域は設定されておらず、近年大規模な水害は発生していない。

また、土砂災害警戒区域および土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所はないが、急傾斜地崩壊危険箇所が4箇所指定されている。

凡例	
	風水害避難所
土砂災害情報	
	急傾斜地の崩壊(特別警戒区域)
	土石流(特別警戒区域)
	急傾斜地の崩壊(警戒区域)
	土石流(警戒区域)
	土石流危険渓流
	土石流危険渓流による危険区域
	急傾斜地崩壊危険箇所
	地すべり危険箇所
	既往水害(東海豪雨)



水害・土砂災害危険度図

【風水害時の避難所および緊急避難場所】

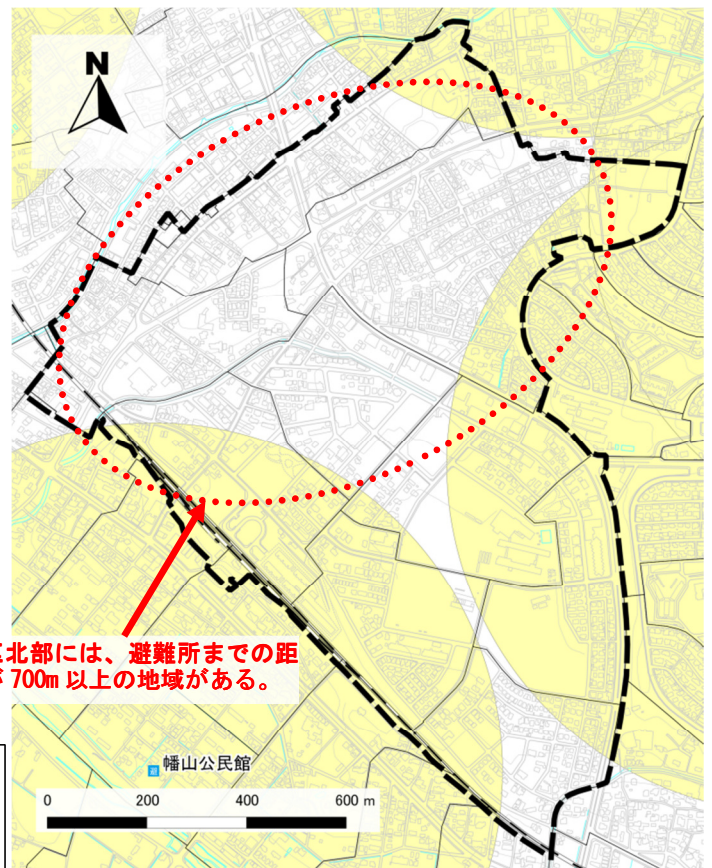
新郷連区内には、風水害時の避難所・緊急避難場所の指定がない。近隣連区の避難所を含めても、連区北部（新郷町、幡野町、赤重町、東赤重町1丁目）などでは、避難所までの距離が700m以上である。連区内に風水害時の避難所が存在しないことを地域住民に周知するとともに、早めの避難を促すなど、避難体制を整える必要がある。

風水害時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所・避難所	収容定員(目安)		
	長期	初期	直後
陶原公民館【陶原連区】	60人	115人	185人
長根公民館【長根連区】	60人	115人	190人
幡山公民館【菱野連区】	40人	80人	130人
八幡公民館【菱野団地】	40人	80人	130人

※地域防災計画より

凡例	
	避難所・緊急避難場所(風水害)
	緊急避難場所兼避難所
	避難所等からの対象範囲(同心円)
	避難所から700mの範囲



連区北部には、避難所までの距離が700m以上の地域がある。

風水害時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図

【18-C】新郷連区 地震災害

- 連区北部に耐震性の低い建物が倒壊する割合がやや高い地域が点在する。
- 連区の全域にて、近隣に地震時の避難所が存在する。

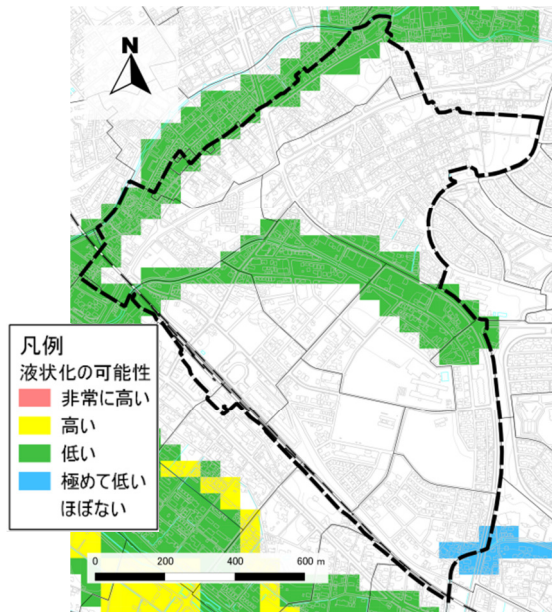
【建物被害および液状化】

(1) 建物被害について

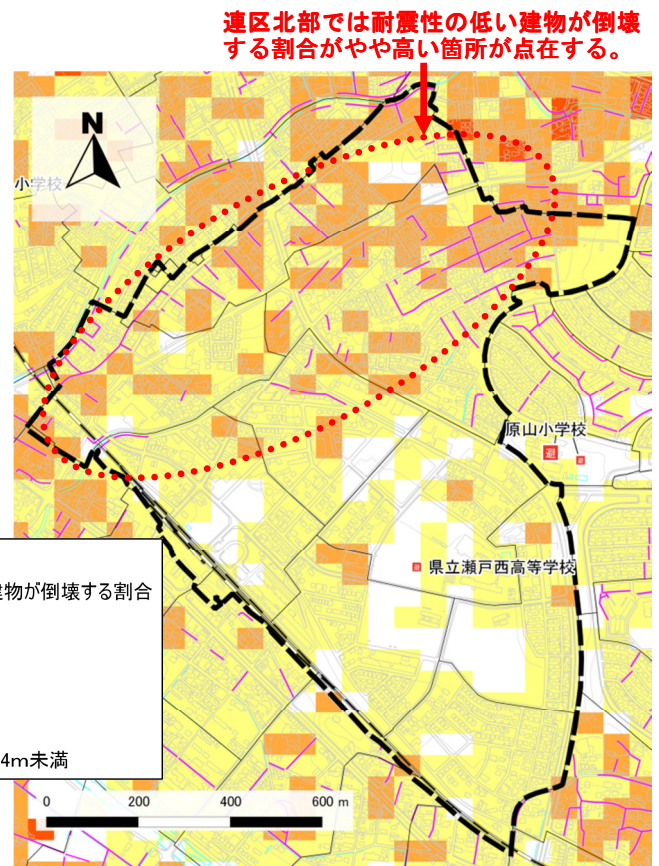
新郷連区はほぼ全域にて、耐震性の低い建物が倒壊する危険性がある。このうち、連区北部（赤重町、新郷町、幡野町）では、耐震性の低い建物が倒壊する割合がやや高い箇所が点在する。

(2) 液状化について

液状化の可能性がある地域は、水無瀬川、井林川によって形成された沖積低地（谷底平野）に分布している。



液状化危険度図



建物（木造および非木造）倒壊危険度図

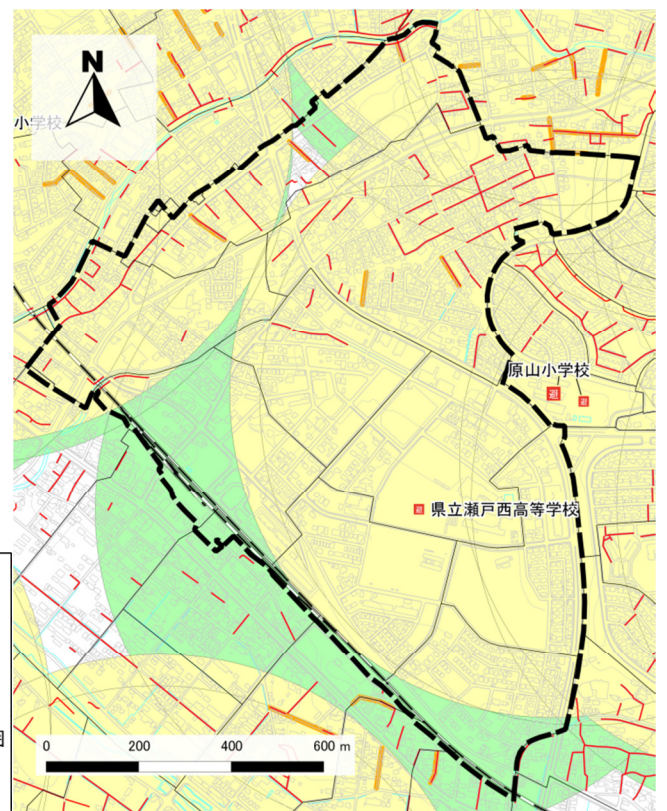
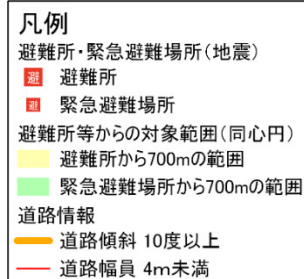
【地震時の避難所および緊急避難場所】

新郷連区では、地震時の避難所に指定されているところはないが、地震時の緊急避難場所として県立瀬戸西高等学校が指定されている。

近隣連区の避難所も含め、ほぼ連区全域において700m以内に避難所もしくは緊急避難場所が存在する。

地震時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所	避難所	収容定員(目安)		
		長期	初期	直後
県立瀬戸西高等学校 (運動場) ※地域防災計画より	陶原小学校 【陶原連区】	135	275	445
	長根小学校 【長根連区】	95	190	310
	原山小学校 【菱野団地】	95	190	305



地震時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図